



わっしょい みんなで かつごう いちのせき!!



わ

「協働」と「地域協働」の違いってなんだろう？

市では、これまでのまちづくりの取り組みの中で、協働を「継続的な話し合いと合意形成」と定めています。これは、何かに取り組む時、関係する人たちが集まり、話し合い、合意のうえで、丁寧に進めていきましょう、という基本的な考え方です。

人口が少なくなればなるほど、地域資源（ヒト・モノ・カネ・ジカン）は限られます。資源を有効に活用するためにも『協働＝継続的な話し合いと合意形成』が重要になります。

「協 働」

基本的な考え方

「地域協働」

協働の考え方により、
地域づくりに取り組む仕組み



わ

一方、地域協働については「地域の自治会等、各種団体、市民、民間事業者（企業）などの多様な主体が、一定の地域のなかでお互いに、又は行政と役割を分担しながら、地域課題の解決や地域の実情に沿って地域づくりに取り組むこと」と定めています。

協働の考え方により、市民それぞれが主体となって地域づくりに取り組む仕組みが地域協働です。

一関市の広い地域で、抱える課題や状況はそれぞれ違います。そのため市では、地域の声が届きやすく、地域コミュニティを代表する組織である地域協働体を中心として、地域協働による地域づくりを進めています。

わ



地域協働体とは

地域協働体とは、各市民センターの区域内において、自治会や地域の各種団体などで組織された地域コミュニティを代表する団体です。地域協働体は、地域の将来像や課題、その解決の方向性などをまとめた「地域づくり計画」に基づく取り組みや、行政と協働することなどにより、地域ごとの特性に応じた地域づくりに取り組んでいます。

第2次 一関市協働基本計画

基本計画の目指すまちの姿

「協働の仕組みが実践される住み良い地域社会を創る」
本計画は、全ての人が地域を支え、創る一員として行動することにより「協働の仕組みが実践される住み良い地域社会」を目指します。

協働の考え方

協働とは「協働の主体である市民組織、企業、行政がお互いの立場を尊重し、公共的、公益的な活動を継続的な話し合いと合意により、協力して行動すること」をいいます。

また、一関市では、協働のスタイルとなる行動基準を次の3つとします。

- (1) 対等の立場で相互の役割と責任を果たすこと。
- (2) 地域課題を解決するため、継続して話し合うこと。
- (3) 地域の良さを尊重し、地域コミュニティを重視したまちづくりを推進すること。

協働の取り組みの基本方針

地域を取り巻く現状や、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、以下の3点を具体的な取り組み方策に掲げ、各種事業に取り組みます。



1 協働のための人づくり



2 協働のための環境づくり



3 協働のための仕組みづくり

協働ニュース「輪っしょい!」では、基本方針①～③の取り組み方策について紹介します。



1

協働のための人づくりの取り組み事例

現状

課題

少子化、高齢化が進む中で、地域の課題は多様となってきました。協働のまちづくりを推進するため懇談会などを開催していますが、なお一層の市民意識の啓発が必要となっていますので、情報提供の工夫が必要です。

「地域協働体からの情報発信 ／地域住民の情報把握」

インターネットが普及する以前は、住民が地域の情報を得る手段は広報誌などが主で、地域の情報が住民の手元に届くまでには時間を要していました。

しかし現代では、インターネットの普及により情報の発信・受信の手段も多岐にわたり、そのスピードはリアルタイムに近づいています。

市内の地域協働体(以下:協働体)の情報発信の取り組みは、ホームページの開設が最も多く、33協働体のうち16協働体が開設しています。ホームページには、協働体の規約や、地域の目指す姿をまとめた「地域づくり計画」、事業の紹介など、各地域の基本的な情報が掲載されており、それぞれの地域の考えや取り組みが見られるようになっています。

次に多く利用されているのがFacebookで、26協働体で利用され、主に事業の参加者募集や、活動の様子が掲載されています。

また、利用数はまだ3協働体と少ないものの、新たにYouTubeによる動画配信をする協働体も出てきました。若い世代ほどテレビより動画を見る人が多い今の時代に、動画で地域の情報を発信することも、地域に目を向け、関心を持ってもらうチャンスの一つかもしれません。

ホームページやFacebook、YouTubeは、基本的に受信者が自ら情報を入手しに行く形の能動的なツールです。一方、登録しておけば、自分から動かずとも手元に地域の情報が届けられるツールとしての、公式LINEによる情報発信も始まっています。利用者自らが情報を検索する手間をかけることなく、地域の情報を手に入れられることがメリットです。

各協働体では、Facebookや公式LINEなどさまざまなSNSを利用し地域の情報を発信しています。また、情報を得る手段が多様化したことで、住民の多くは気軽に地域のことについて知ることができ環境にいます。直接地域づくりや協働体の活動へ参加できなくとも、まず、自分の住む地域を知り、情報を把握することも、地域づくりへの一歩です。



2

協働のための環境づくりの取り組み事例

現状

課題

地域での人のつながりや交流が薄くなってきていて、市民やグループ・団体などの相互理解も十分とは言えないことから、住民や市民活動団体等の交流の機会・環境づくりが必要です。

山目中野民区「地域見守り活動」

コロナ禍になり地区住民の交流の場が減少し、住民同士が顔を合わせる機会も減り困ったと感じていた民区長的那須さん。さらに民区内では、新しく民生委員や保健推進委員になった人が地区住民を知らないため、訪問活動ができていない、という課題も出てきていました。

集まる機会が減る中で、那須さんが特に気にしたのはコロナ禍で外出する機会も減り、孤立や孤独になりがちになる独り暮らしの高齢者や、高齢者世帯です。

そこで、自ら足を運ぶことに方向転換し、区長、民生委員、保健推進委員、班長がチームを組み、市の広報を配りながら対象となる独り暮らし世帯、高齢者世帯の自宅を訪問し、地域の見回り活動をする仕組みをつくりました。

チームで訪問することで、新しい役員が地域や人を知り、訪問を受けた住民の方も、チームの中に知った顔の方がいることで安心してもらうことができています。

また、訪問活動は毎月実施していますが、ひと月で民区内の全ての対象世帯を訪問するのではなく、月ごとに訪問する班を決め、半年に1度訪問するスケジュールを組み、1度の

チームでの活動は短時間で終わるように工夫しています。

短い時間の世間話からも、困りごとや課題などの情報を得ることができ、期間を空けて訪問することにより、半年間での健康状態の変化にも気付きやすくなるなど、民生委員や保健推進委員の活動につなげることも可能になりました。シンプルな見回り活動ですが、チーム制にしたことで住民同士をつなぐ機会として効果をあげています。

「今の隣組は、そんなに希薄なのかと改めて考えさせられました。難しい事業をしようとする長続きしないし、やり手がない。そんな中で、市広報を毎月配布していることをチャンスと捉え、ポストインしていたものを高齢者家庭のチャームを押すことにしました。元気な顔を拝見するだけでいいと思っています」と那須さんは語りました。



チームによる高齢者宅訪問の様子



3

協働のための仕組みづくりの取り組み事例

現状

課題

少子・高齢化と人口減少や住民意識の多様化などにより、基礎的コミュニティの弱体化が生じており、地域協働によるコミュニティ機能の再生充実と地域力の強化が求められています。

猿沢振興会「地域の歴史保存の取り組み」

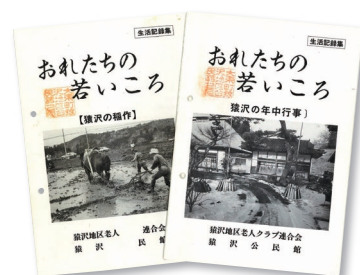
長年にわたり地域の史料等の調査、保存活動をしてきた猿沢史談会が解散したのは平成30年。それと同時期に、地域の話し合いで猿沢の歴史を語り継ぐ人がいない、神楽の後継者が不足しているなどの課題が挙げられたことから、地域で解決策を模索しました。

解決策として第2期地域づくり計画に反映された取り組みの一つが、猿沢全体の継承活動として事業化した「記録保存事業」で、地域全体で残していきたい猿沢の歴史（昔の風景・神楽等の伝統・地域の昔話や由来など）資料を収集、データ化し、後世に残すため保存することが目的です。

各家庭や地域で保管している歴史的資料も保存していくため、区長さんを通じ、資料の提供をお願いするチラシを地区内全戸に配布しました。今後は、提供を受けた資料をデータ化するため、地区住民に問いかけて委員会を立ち上げ活動していく予定です。

事務局の千田さんは、「猿沢史談会の解散は、地区にとって大きな損失であり、このことが記録保存事業のきっかけとなりました。貴重な資料や記録は、今後ますます散逸・滅失されていくことが予想されます。今回、事業化して地区に問いかけたことで、猿沢に住む自らが史料を守り、保存していく意識づくりにつながればと思っています。保存なくして活用はできないということを、地区全体で真剣に考えなくてはならない時ではないでしょうか」と語りました。

高齢化等により、さまざまな地域団体や自治会等の活動が難しくなっているなかで、猿沢振興会の取り組みは、地域団体の役割を補完する、地域協働の仕組みが構築された例と言えます。



データ化に取り組んでいる資料



協働で進める 「元気な地域づくり事業」

一関市の協働の取り組みの一つに、「元気な地域づくり事業」があります。

元気な地域づくり事業は、地域の住民、各種団体等と市が、お互いの得意分野、専門分野等の知識や経験を活かし、協働で、地域毎に取り組む事業です。

地域住民と行政がお互いに協力し、地域の魅力や資源を活用したさまざまな事業を展開することで、地域特性を活かした特色ある地域づくり、活力ある地域づくりを目指します。

事業紹介

～元気な地域づくり事業（大東・室根地域）紹介～

「2023室根高原牧場まつり」

9月17日(日)、室根高原ふれあい牧場を会場に「2023室根高原牧場まつり」が開催されました。

このイベントは、室根高原の景観のすばらしさと周辺エリアの観光PRを目的として、市と室根総合開発株式会社、JAいわて平泉、風薫る丘みちのく乗馬クラブなどで実行委員会を組織し、協働で取り組んだものです。

当日は、乗馬や引き馬体験、牧草ラップのお絵かきや重量当てクイズなどが行われたほか、キッチンカーや屋台村もあり、多くの来場者が緑の中でイベントを楽しみました。

～元気な地域づくり事業（川崎、千厩、藤沢地域）紹介～

「かわさき食べ歩きスタンプラリー」

5月1日(月)～12月31日(日)

「せんまやグルメスタンプラリー」

9月23日(土)～1月31日(水)

「あっぷるロードin藤沢スタンプラリー」

10月6日(金)～1月31日(水)

市内では、地域それぞれの魅力を感じてもらうため、地域内のさまざまな団体などと協力し、スタンプラリーを実施しています。

どの地域も、地域内の飲食店や特産品を知ってもらい、多くの人に地域内をめぐってもらうため、工夫を凝らしたスタンプラリーとなっています。また、スタンプラリーでは、条件を達成すれば景品が当たる抽選に応募することができます。

まだ知らない場所やお店を訪れるきっかけとして、各地域で開催中のスタンプラリーに参加してみたいはいかがでしょうか。



※詳細は、一関市協働推進ホームページ「輪っしょい!WEB」(リンク先URL、二次元コードは下に記載)からもご覧いただけます。

